

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームしおかぜの基本理念 1.入居者にとって「自宅に代わる家」を目指します。2.入居者を尊重し、個人の意思や思いやりが最優先される雰囲気づくりと支援を目指します。(すぐに手や口を出さない)3.ひとりひとりの生活のリズムやペースに合わせた支援を行います。(職員本位の都合を押しつけない)4.穏やかな生活を入居者・職員とともに過ごす事で入居者のあらたな能力を発見・発揮できるように適切な援助・支援を行います。5.入居者にとって安全で安心できる生活実現に努めます。6.今までの家庭生活を出来るかぎり継続できるように入居者の通信・交流の援助を行います。7.身体的にも精神的にも拘束しません。8.グループホームに居住していても地域社会の一員であると入居者が感じられるように地域福祉の増進に努めます。9.入居者・職員・家族と一緒に協働し、楽しみながら日々の生活が過ごせるよう支援を行います。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記の理念を額に入れて、グループホーム内の見やすい所に掲げている。また、職員ひとりひとりに理念を配布、説明を行い、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、入居者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	上記の理念を額に入れて、グループホーム内の見やすい所に掲げている。入居者さんと一緒に日々地域へ出かけ、地域で普通の暮らしをしている事を理解していただけるよう取り組んでいる。		
2.地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の商店会に加入。回覧版は入居者さんと一緒に届けている。ご近所の方には常にあいさつをし、また向こうからもあいさつしてくださる関係作りができています。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所のお祭りにはいつも参加している。入居者さん用に席も用意して下さる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 入居者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症学習会の開催を行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は見直しのとてもよい機会になり、具体的な改善が行える。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域の方の意見をたくさん出していただけるよう促し、サービス向上に努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症学習会の共同開催。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会への参加。参加者より、常勤職員への周知。新しい入居者さんが、入居前から成年後見制度を利用しておられる。本人、家族、職員で話し合いの場をできるだけ多く設けているが、他の入居者さんは今のところ必要性は感じられない。		研修会への参加した参加者より、常勤職員への周知はできているが、非常勤職員への周知ができていない。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、入居者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加。参加者より、常勤職員への周知。虐待には常に注意を払い、防止に努めている。少しでもおかしいなと思ったらすぐに報告し全職員で話し合いを行なっている。		研修会への参加した参加者より、常勤職員への周知はできているが、非常勤職員への周知ができていない。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、入居者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	回数を重ね、詳細に話し合いを行なっている。	
13	<p>運営に関する入居者意見の反映</p> <p>入居者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	常にこちらからお聞きする姿勢を示し、かつ虹の箱（意見箱）を設置し、いつでも意見・不満・苦情を出していただけるようにしている。またご意見等はすぐに解決できるよう、グループホーム会議や当法人の事業所向上委員会で早期の話し合いを行なっている。	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	家族会や地域運営推進会議での定期報告。またご家族と顔を合わせたときには非常勤も含め全職員が報告、相談を行なっている。	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	常にこちらからお聞きする姿勢を示し、かつ虹の箱（意見箱）を設置し、いつでも意見・不満・苦情を出していただけるようにしている。またご意見等はすぐに解決できるよう、グループホーム会議や当法人の事業所向上委員会で早期の話し合いを行なっている。家族会、地域運営推進会議でも定期的にご意見等をお伺いしている。	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	職員会議（月1回）、グループホーム会議（月1回）、職員総会（年2回）等の開催。	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>入居者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	必要な時間帯に職員の増員を行なっている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている	前担当者と新担当者の申し送り期間を設けている。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や内部学習会等、積極的に参加させている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市グループホームネットワーク、港区グループホームネットワークへの参加。港区の他のグループホームと一緒に近くの公園でランチ（入居者さん、ご家族、職員）。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	意見の言いやすい雰囲気作りをしている。学習会の開催 ストレスとの上手な付き合い方。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員会議（月1回）、グループホーム会議（月1回）、職員総会（年2回）等の開催。外部研修や内部学習会等、積極的に参加させている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	回数を重ね、詳細に話し合いを行なっている。	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	回数を重ね、詳細に話し合いを行なっている。	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	グループホームの入居はもちろん、デイサービスやデイケアへの参加、診療所受診やリハビリ、訪問看護や往診等、必要なサービス提供に努めている。	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の入居者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	グループホームの日帰りや一泊からの利用から始め、徐々に慣れていただける環境作りに努めている。仮契約による短期間利用や、グループホームとご自宅を往復したり、徐々にグループホームに居る時間を増やしていったり、ご家族がグループホームと一緒に居る時間を多くしていただいている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	できることは本人にしてもらい、行動が進まないときにはまず声かけを行なって促し、出来る限り本人にしてもらうようにしている。得意分野は本人から教えてもらいながらスタッフと共に行なっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と相談する機会を多く設け、職員からの支援だけでなく、ご家族と一緒にいる。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来所回数の減っているご家族に連絡をとり、来所していただく機会を増えるようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くの商店街等へ買物に行き、馴染みの方々と会える機会になっている。また馴染みの方とお会いしたときにはグループホームへいつでも来ていただけるよう声かけしているため、定期的に来てくださっている方もいる。		
31	入居者同士の関係の支援 入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご自分で歩けない方も皆が居るリビングや食堂に来ていただき、自然に皆の輪に入れるようにしている。入居者同士のコミュニケーションが図れるよう職員が介入している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする入居者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了した方は長期入院ののち亡くなられたため、お通夜、お葬式に参列した。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>希望、意向はいつでもお聞きするよう努めており、出来る限り実行するように努めている。困難な場合も本人と話し合いを行なっている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人、家族にお伺いするとともに、日々の生活で知った事柄も記録し、皆で周知できるようにしている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一人ひとりをご自由にお過ごしいただけるよう、本人の意向を尊重し、スタッフ間の申し送りも詳細に行なっている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる入居者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族、スタッフ、関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを持ち寄り、よりよい介護計画が作成できるよう協同している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>必要に応じて随時作成しており、期間に応じた見直しが行えていない。</p>	<p>期間に応じた見直しができるよう、毎月のグループホーム会議で計画の見直しを行う等が必要。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全勤務者が個別記録に記入し、申し送りノートも活用して情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自施設内のデイサービスのご利用や、車イスの入居者さんのためにデイサービスのリフト浴のご利用をいただいている。また、当法人高齢者住宅屋上の家庭菜園へ野菜や果物を収穫に行く際にその入居者さん、職員の協力がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	外出や行事時のボランティアさん、年1回の消防士さんによる避難訓練、地域の家族介護者教室への参加等、協力いただいている。		警察、文化・教育機関との連携もしていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	当法人居宅介護支援事業所や診療所職員、当施設職員と話し合い、39のようなサービスの利用を支援している。また区内のグループホームの交流会への参加もしている。地域の他のケアマネジャーとの話し合いはしていない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域運営推進会議への参加、認知症学習会等の開催の協力はいただいているが、権利擁護やケアマネジメントについての協働はしていない。		総合的な相談窓口である地域包括支援センターとの協働を増やしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に当法人診療所所長の診療を受けていただいている。その際に受診、往診等のお話をさせていただき、納得いただいている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、入居者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当法人診療所所長が認知症専門医であり、気軽に相談でき、アドバイスももらっている。また往診医と職員も気軽に相談できるため、その方にあった支援を行なっている。		
45 看護職との協働 入居者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと契約し、定期・臨時の訪問をお願いしているため気軽に相談できる。医療用連絡ノートを活用し、日々の体調の変化、情報の共有を図っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 入居者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は病院関係者と連絡を取り、現在の状況、退院後の必要事項について情報交換をしたり、お見舞いにも伺っている。退院時にも病院へ伺い、関係者との情報交換、医師の指示書・看護サマリーをいただき、継続した支援を行えるようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医から話があればすぐに本人・ご家族・かかりつけ医と話し合い、全員で方針を共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の入居者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終の棲家を目的としているため、訪問看護ステーションと契約し、定期・臨時の訪問をお願いしている。また、往診の医師、当法人診療所所長とも連携している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>入居者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	まず、何を食いたいとお聞きし、一緒に買物へ行き、調理、盛り付け、配膳も一緒に行なう。皆で楽しく会話をしながら食事を摂り、できる方はご自分で食器を流しに持って行って洗っていただく。もちろん皆で食べる事は強制ではないので、ご気分によってお部屋で召し上がったたり、後から召し上がる方もいらっしゃる。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一緒に買物へ行った際には買いたいものをお聞きし、購入していただいている。お酒を飲まれる方もいらっしゃる。		
56 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、早めのトイレ誘導を行い、できるだけ失禁のないよう支援している。		オムツ使用の方が増えている。ご自身で何度もトイレに行かれるが失敗が多い方が2名、排泄パターンが把握できない方が2名、トイレ誘導を拒否される方が1名。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴が基本。毎日声をかけ、入浴を促している。めんどくさくて(?)断られたときは時間をあけたり、違う職員が声をかけたりしている。入浴後は皆さんすっきり「気持ちよかった」の声。1番に入りたい方、16時に入りたい方、最後に入りたい方等、ご希望に沿えるようにしている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご自身で動ける方々はリビングのソファ、食堂、お部屋等、思い思いの場所で休息、お昼寝しておられる。ご自身で動けない・意思表示の難しい方々は、体調の変化に合わせて、会議での統一見解に基づいて休憩時間を設けたりして、臥床していただくようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩、買物、調理、花、犬、小さい子などなど好きなこと・ものは色々。その方に合わせた役割、楽しみがあり、支援している。意欲的に調理して下さる方が多い。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお財布を管理されている方が1名。他5名は事業所預かりだが、買物の際はご自身で支払い、受け取りをしていただけるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	昼、夕食の食材の買出しや個人の必要物品の買物、散歩、洗濯物干し等、入居者さんに声をかけ、必ず一緒に行くようにしている。また、同じ方に偏ることのないよう、外出した方がわかるよう、日誌にチェック欄を設けている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の入居者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「どこか行きたいところはありませんか?」と常々聞くよう心がけている。声があがればご家族にも声をかけ、ご希望の所へ外出するようにしている。外食や花見、家族会での皆での外出(少し遠出)等も行なっている。		一泊旅行
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	以前は手紙のやり取りをしている方がおられたが、現在はおられない。電話はご自由にお使いいただけるよう使いやすい位置に置いており、ご希望があればお電話できるよう支援も行なっている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問客が来られた際には明るく迎え入れ、お部屋、リビング、食堂どこでも過ごしていただけるよう声かけしている。リビングや食堂で過ごされるときは、そこにおられる他の入居者さんも交えて会話が弾むよう介入している。外出時に馴染みの方とお会いしたときには、是非いつでも訪問していただけるよう声かけしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことは入職時に説明している。月1回のグループホーム会議でも話し合っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者さんにご自由に生活していただくために日中玄関に鍵はかけない。お部屋はご自身で中から施錠される方々もいらっしゃる。職員がお部屋の鍵をさわることはほとんどない。(お部屋から出てこられず、何度ノックしてもお返事がない場合に鍵を開けさせていただくことはまれにある。)		
67 入居者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して入居者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	今、誰がどこにいらっしゃるのかは常に把握するように心がけている。お部屋へ行く際は必ずノックをして声をかけてから入るようにしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	家庭的な雰囲気を壊す事のないよう、家庭にある当たり前のものを置いている。決まったものを収集される方がおられるので、他の入所者さんのものを持っていかれないよう個人のは早めにお部屋へ持って行っていただくようにしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年2回の避難訓練のうち、1回は消防士の方に来ていただき、応急手当や初期対応の訓練をしている。また当法人の看護師に講師を依頼し、必要度の高い疾患についての学習会も行なっている。月1回のグループホーム会議で一人ひとりの入居者の検討を行い、事故防止に向けた意思統一を図っている。		
70 急変や事故発生時の備え 入居者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回の避難訓練のうち、1回は消防士の方に来ていただき、応急手当や初期対応の訓練をしている。また当法人の看護師に講師を依頼し、必要度の高い疾患についての学習会も行なっている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練の実施。月1回のグループホーム会議でも避難経路の確認を行なっている。災害時緊急連絡網にご近所の理事、組合員の方が入ったださっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族とお話、相談する機会を多く設けている。入所ではなく生活するために何が大事か、一人ひとりがご自分の意志で動かれることを大前提にお話している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しの体調の変化もきちんと申し送りを行い、継続した対応をしている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬リスト(用法・効能・注意・他が書かれたもの)を全職員が見れるようにし、服薬介助を行なっている。症状の変化の確認を行い、また服薬を拒否する方等、必要時には訪問看護師や医師に相談している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方はご家族と相談しヤクルト等、お通じを促すものを摂取していただいたり、繊維質の多い食事にしたりと工夫している。また、おなかのマッサージや、体を動かす機会を多くすることもしている。薬を使用する頻度も、その方に応じたものを訪問看護師とともに皆で相談して決めている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは起床時、就寝前に行なっている。できるだけご自分でしていただいている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表でそれ以前に食べたものを確認し、バランス良く摂取できるようにしている。食事摂取量は毎回記載し、食事や水分摂取量が少なければ申し送りを行い、記録にも記載する。状態に応じて食べやすいものを作る等、一人ひとりに合わせた食事提供を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対応マニュアルがあり、実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日食洗機で洗浄、乾燥を行なっている。食材は当日に購入したものを多く使っており、調理後2時間以上経ったものはお出ししないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 入居者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の前に花壇があり、玄関の自動ドアは気候の良いときは開けっ放しにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、入居者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は自然な音、光に配慮し、一般家庭にあるものを揃えており、お花を飾ったり、見やすいカレンダーで季節感を採り入れている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やリビングで過ごせたり、またソファをリビングと食堂の間にも置いており、お好きなところで思い思いにお過ごしいただけるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	お部屋のものは全て本人の私物であり、使い慣 れたものや好みのもを持ってきていただけよう 事前にお伝えしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、入居者の状況に応 じてこまめに行っている	換気に努め、外出時に体に負担がないよう、外 気温と大きな差のないよう温度調節している。 お部屋ごとに個々のお好みに応じた温度調 節も行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	歩行時、手すり、いす、柵等を持ちなが ら一人で歩けるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	できることは本人にしてもらい、行 動が進まないときにはまず声かけを行 なって促し、出来る限り本人に してもらおうようにしている。得意 分野は本人から教えてもらいなが らスタッフと共に行っている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを入居者が 楽しんだり、活動できるように活 かしている	ベランダで家庭菜園をしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)